平成29年度　施策評価シート

基本目標	Ⅰ	「すみだ」らしさの息づくまちをつくる
政策	120	すみだの多彩な魅力を内外に発信し、成熟した国際観光都市をつくる
施策	122	区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくる
施策の目標	区内に点在する観光拠点・資源の連携により、観光地としての魅力が向上するとともに観光プログラムが充実し、多くの人々がすみだを訪れ、まちがにぎわっています。	

1　基本計画における成果指標の状況

指　標　名	観光客による区内観光施設等の平均立ち寄り地数									
	基準年(H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標					3.5箇所					4.0箇所
実績										

指　標　名	墨田区における来訪者の観光消費額推計									
	基準年(H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標					4500億円/年					4750億円/年
実績										

2　目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移（千円）	
上記指標については、平成29年度中に実施する観光関連調査において調査項目に加える。	H28	140,521
	H29	136,053
	H30	

3　施策の評価及び判断理由

評価	理由
B	区内回遊促進イベント等の実施により、多くの観光客が区内を訪れている。

4　今後の施策の運営方針

評価	施策の戦略的方向性
	（1）　優先的に資源投入を図る。
	（2）　現状維持とする。
○	（3）　現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	（4）　資源投入の縮小を図る。

【上記の判断理由】

東京スカイツリーによる経済波及効果を区内全体の産業活性化に結び付ける上で、観光施策の推進は、本区における最重要テーマである。区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくるため、より効率的な運営を図る必要がある。

【今後の具体的な方針】

更なる観光客の誘客を推進すべく、「すみだ3M運動」や「すみだ地域ブランド戦略」と連携したものづくり観光、すみだならではの観光資源を活用したまち歩き観光、商店街・商業施設等と連携した観光プログラムの充実を図っていく。

５　この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳　出 決算額 （千円）	施策への関連性	目的に対する指標		直近の評価内容
				年度目標値 年度実績値	推移	評価結果 評価対象年度
1	区内循環バス運行等経費	95,794	適正な運行と回遊イベントの実施により観光資源を連携させる。	4,500人 4,119人	↘	改善・見直し（効果測定） 平成28年度
2	水辺空間を活用した賑わい創出事業	20,000	産直市等により魅力的な水辺空間を創出し、楽しめるまちをつくる。	44,000人 44,000人	→	改善・見直し 平成28年度
3	地域連携区内回遊イベントの実施	9,153	地域を盛り上げる回遊イベントを実施することで観光資源を連携させる。	6,500人 6,500人	→	改善・見直し 平成28年度
4	観光舟運促進事業	2,610	観光舟運を中心とした水辺の賑わい創出により、楽しめるまちをつくる。	4,600人 4,649人	↗	統合 平成28年度
5	両国観光まちづくりグランドデザイン推進事業	2,997	地域と共に観光まちづくりを推進し、両国地域の賑わいを創出する。	1回 1回	→	改善・見直し 平成28年度
6	北斎美術館開館に伴う回遊促進事業	9,967	北斎美術館の開館に合わせたイベントを実施することで、北斎館の認知度の向上と来街者の区内回遊を促進する。	150,000人 190,000人	↗	統合 平成28年度
7						
8						
9						
10						
11						
12						

平成29年度　事務事業評価シート

施　　策	122	区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくる	部内優先順位
事務事業	区内循環バス運行等経費		1
事業概要	観光客の区内観光回遊性及び区民の生活利便性の向上を図るため、主要な駅、観光エリア、公共施設を巡る区内循環バスを運行する。		主管課・係（担当） 観光課観光担当 03-5608-6500
施策への関連性	適正な運行と回遊イベントの実施により観光資源を連携させる。		

必要性・妥当性

区民のニーズ

平成２５年度に実施した利用実態調査では、利用者の８２％が区民であった。また、１日当たりの平均利用者数が毎年増加していることからも、区民の足として定着しており、区民のニーズは高いと判断する。

代替可能性の状況（区が実施する必要性等）

代替可能性：なし
民間事業者の主体性に任せた運行では、観光客の区内観光回遊性及び区民の生活利便性の向上という目的を達成することが難しいため、区が運行計画を策定し、バス事業者に委託して実施する必要がある。

有効性・適格性

手段に対する指標（活動指標）

指　標	１日乗車券の年間販売枚数				単　位	枚
最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	H31
3,700	H37	目標	3,600	3,700	3,700	3,800
		実績	3,697			
	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標	3,700	3,700	3,700	3,700	3,700	3,700
実績						

指標の選定理由及び目標値の理由

指標の選定理由：観光客の利用状況の推定指標となるため
目標値の理由：２４年度導入当初からの推移をもとに設定。31年度は五輪による増を想定

目的に対する指標（成果指標）

指　標	１日当たりの平均利用者数				単　位	人
最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	H31
4,500	H37	目標	4,500	4,500	4,500	4,600
		実績	4,119			
	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500
実績						

指標の選定理由及び目標値の理由

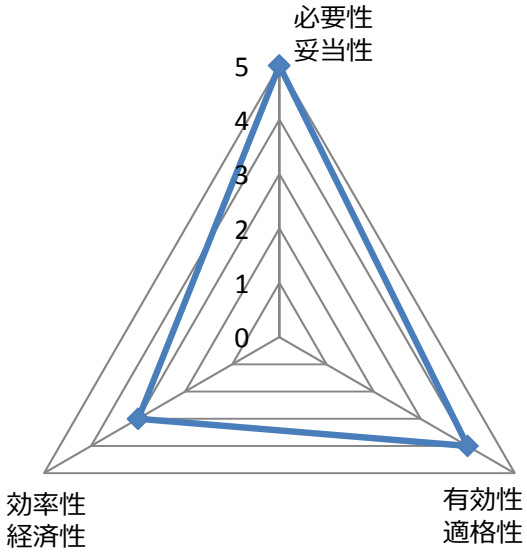
指標の選定理由：利用状況の指標であるため
目標値の理由：区内循環バスの想定利用者数であるため。31年度は五輪による増を想定

財政面〔決算額〕（単位：千円）

H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
95,794						

H35	H36	H37	〔予算の傾向〕

1　必要性・妥当性	
区民ニーズの有無	ある
代替可能性の有無	ない
区が実施すべき強い理由があるか	ある
判断理由	
観光客の区内観光回遊性及び区民の生活利便性の向上という目的を達成するには、区が実施する必要がある。	
2　有効性・適格性	
事業の目的が施策に合致しているか	合致している
指標は目標値を満たしているか	活動指標のみ満たしている
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある
判断理由	
事業目的は施策と合致しており、事業の適格性は高い。１日当たりの平均利用者数は目標に達していないため、今後利用者増に向けた取組を一層推進していく必要がある。	
3　効率性・経済性	
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある
地域社会やその他住民への波及効果があるか	未測定
判断理由	
運行開始年から毎年乗降客数は増えており、区民や観光客の足として定着しているため。	



必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
5	4	3	3

効果測定及び改善・見直しの上継続

中間・最終年度の講評	運行収支不足額の一部について補助を行っているため、今後利用者増に向けた取組を一層推進していく必要がある。
今後の方向性	更なる利便性の向上と乗降客数の増加を目指すとともに、観光客の区内回遊を促進するための各種事業を積極的に展開する。また、乗降客数等の調査を実施する。

平成29年度　事務事業評価シート

施　　策	122	区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくる	部内優先順位
事務事業	水辺空間を活用した賑わい創出事業		2
事業概要	うるおい広場等を活用した産直市「ＴＨＥ　ＧＲＥＥＮＭＡＲＫＥＴ ＳＵＭＩＤＡ」の開催等を推進することで、人々が集い、賑わいが生まれる魅力的な水辺空間の創出を実現する。		主管課・係（担当） 観光課観光担当 03－5608－6500
施策への関連性	産直市等により魅力的な水辺空間を創出し、楽しめるまちをつくる。		

必要性・妥当性

区民のニーズ

住民意識調査（第24回）において、「推進すべき観光施策」について、「観光イベントの実施」と回答した区民が32.4%（8項目中3位）あり、高い需要がある。

代替可能性の状況（区が実施する必要性等）

産業と観光の融合を目的に、区内事業者の出店枠も設けているが、民間事業者では区内外の様々な団体との調整が難しいため、区が実施する必要がある。

有効性・適格性

手段に対する指標（活動指標）

指　標	イベント回数					単　位	回
最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29		H30	H31
12	H37	目標	7	10		10	10
		実績	7				
	H32	H33	H34	H35		H36	H37
目標	11	11	11	12		12	12
実績							

指標の選定理由及び目標値の理由

うるおい広場等を活用したイベントを実施することで、誘客促進を図り、水辺の賑わいを創出していく必要があるため

目的に対する指標（成果指標）

指　標	イベント来場者数					単　位	人
最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29		H30	H31
72,000	H37	目標	44,000	65,000		65,000	68,000
		実績	44,000				
	H32	H33	H34	H35		H36	H37
目標	68,000	69,000	69,000	70,000		70,000	72,000
実績							

指標の選定理由及び目標値の理由

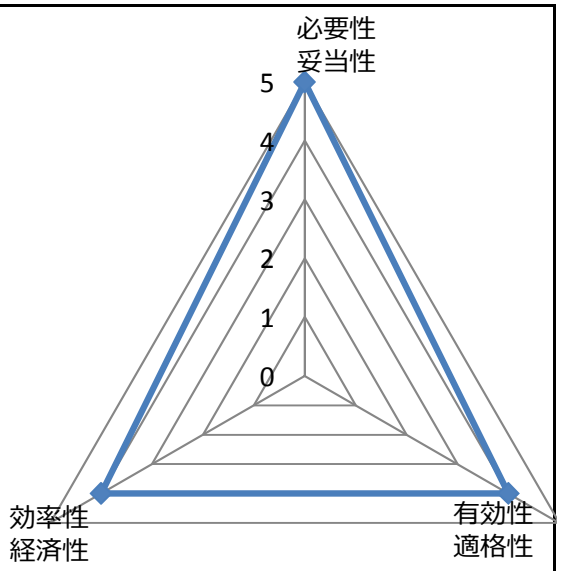
賑わい創出を目的とした事業であるため、成果指標としてイベント来場者数が適当であると判断した。

財政面〔決算額〕（単位：千円）

H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
20,000						
H35	H36	H37				

〔予算の傾向〕
28年度からの新規事業である。なお、29年度予算は28年度と同額である。

1　必要性・妥当性	
区民ニーズの有無	ある
代替可能性の有無	不十分
区が実施すべき強い理由があるか	ある
判断理由	
水都すみだの再生に向けて、魅力的な水辺空間を演出し、賑わいを創出していく必要がある。	
2　有効性・適格性	
事業の目的が施策に合致しているか	合致している
指標は目標値を満たしているか	活動指標のみ満たしている
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある
判断理由	
事業の目的は施策に合致しており、事業の適格性は高い。今後は、最終目標値の達成に向けてより効果的な事業運営を行っていく必要がある。	
3　効率性・経済性	
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある
判断理由	
区内事業者の出店枠を設けており、区内事業者のＰＲ等、地域への波及効果を有した事業であるため	



必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
5	4	4	4

改善・見直しの上継続

中間・最終年度の講評	より効果的・効率的な事業運営を目指し、運営事業者、関係部署及び区内産業団体等との連携強化を図る必要がある。
今後の方向性	リバーサイドカフェ、吾妻橋観光案内所及び舟運事業等と連携し、更なる賑わいの創出を図っていく必要がある。

平成29年度　事務事業評価シート

施　　策	122	区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくる	部内優先順位
事務事業	地域連携区内回遊促進イベントの実施		3
事業概要	地域団体や区内企業等と連携し、地域を盛り上げるイベントを実施することにより、東京スカイツリーを訪れる観光客等の区内回遊を促進する。		主管課・係（担当） 観光課観光担当 03－5608－6500
施策への関連性	地域を盛り上げる回遊イベントを実施することで観光資源を連携させる。		

必要性・妥当性

区民のニーズ

住民意識調査(第24回)において、「推進すべき観光施策」について、「観光イベントの実施」と回答した区民が32.4%（8項目中3位）あり、高い需要がある。

代替可能性の状況（区が実施する必要性等）

東京スカイツリータウン内の広場を活用した回遊促進イベントを年3回開催しているが、その前提として、区と東武鉄道株式会社との間で広場利用に関する確認書を締結している。このことから、区による実施は妥当であると考える。

有効性・適格性

手段に対する指標(活動指標)

指　標	イベント来場者数					単　位	人
最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29		H30	H31
200,000	H37	目標	185,000	185,000		185,000	185,000
		実績	182,500				
	H32	H33	H34	H35		H36	H37
目標	190,000	190,000	195,000	195,000		195,000	200,000
実績							

指標の選定理由及び目標値の理由

観光資源を連携させたイベントを実施することで、観光客等に対して、区内回遊を促す効果る期待されるため

目的に対する指標(成果指標)

指　標	スタンプラリーに参加した区内回遊者数					単　位	人
最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29		H30	H31
7,150	H37	目標	6,500	6,700		6,700	6,700
		実績	6,500				
	H32	H33	H34	H35		H36	H37
目標	6,900	6,900	7,000	7,000		7,000	7,150
実績							

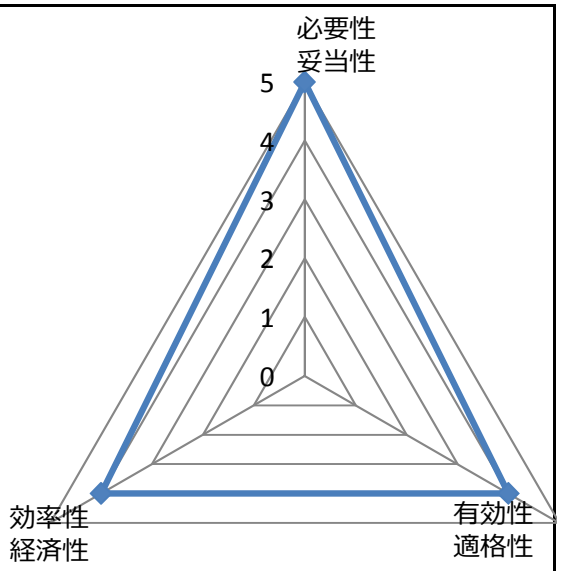
指標の選定理由及び目標値の理由

イベント実施による直接的な成果指標であるため

財政面〔決算額〕(単位：千円)

H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
9,153						
H35	H36	H37	前年比194千円増			

1　必要性・妥当性	
区民ニーズの有無	ある
代替可能性の有無	不十分
区が実施すべき強い理由があるか	ある
判断理由	
東京スカイツリー®を訪れる観光客等の区内回遊を促進する必要があるため	
2　有効性・適格性	
事業の目的が施策に合致しているか	合致している
指標は目標値を満たしているか	成果指標のみ満たしている
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある
判断理由	
東京スカイツリータウン内の広場と区内の観光資源を連携させた事業であり、施策への関連性の高い事業であるため	
3　効率性・経済性	
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある
判断理由	
各地域における観光資源の認知度向上及び経済効果が期待されるイベントであるため	



必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
5	4	4	4

改善・見直しの上継続

中間・最終年度の講評	より効果的・効率的な事業運営を目指し、運営事業者、関係部署及び区内団体等との連携強化を図る必要がある。
今後の方向性	地域や関係団体との連携強化を図り、恒常的に区内回遊が促進される仕組みづくりを進めていく必要がある。

平成29年度　事務事業評価シート

施　　策	122	区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくる	部内優先順位
事務事業	観光舟運促進事業		4
事業概要	観光を基軸とした舟運に係る事業を実施し、水上交通における区内回遊性の向上及び水辺の賑わいの創出を実現する。		主管課・係（担当） 観光課観光担当 03－5608－6500
施策への関連性	観光舟運を中心とした水辺の賑わい創出により、楽しめるまちをつくる。		

必要性・妥当性

区民のニーズ

住民意識調査（第24回）において、「推進すべき観光施策」について、「交通環境の整備（コミュニティバス、レンタサイクル、船の運行など）」と回答した区民が34.6%（8項目中1位）あり、高い需要がある。

代替可能性の状況（区が実施する必要性等）

「水都すみだの再生」に向け、観光舟運に係る情報発信やイベント等を区と事業者が連携して実施していく必要がある。

有効性・適格性

手段に対する指標（活動指標）

指　標	舟運活用イベント参加者数					単　位	人
最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29		H30	H31
10,500	H37	目標	9,500	9,700		9,700	9,900
		実績	9,500				
	H32	H33	H34	H35		H36	H37
目標	9,900	10,100	10,100	10,300		10,300	10,500
実績							

指標の選定理由及び目標値の理由

舟運事業者と連携してイベント等を実施し、観光客等に対して観光舟運を含めた水辺の魅力を伝えていく必要があるため

目的に対する指標（成果指標）

指　標	おしなり公園・吾妻橋船着場使用回数					単　位	回
最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29		H30	H31
5,100	H37	目標	4,600	5,000		7,500	7,500
		実績	4,649				
	H32	H33	H34	H35		H36	H37
目標	7,500	5,000	5,000	5,100		5,100	5,100
実績							

指標の選定理由及び目標値の理由

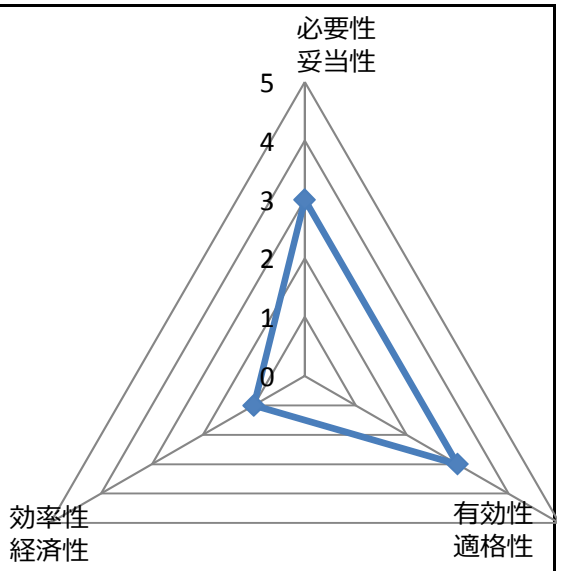
水上交通の活性化及び水辺の賑わい創出の進捗を示すものとして、上記指標が適当であると考える。
３０年度以降、船着場の使用回数が増加しているのは、現在両国で発着している観光船が、両国リバーセンターの整備との関係で、一時、吾妻橋船着場へと移転してくる見込みとなっているからである。

財政面〔決算額〕（単位：千円）

H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
2,610						
H35	H36	H37				

〔予算の傾向〕
前年比　6,246千円減
※平成27年度予算　8,856千円

1　必要性・妥当性	
区民ニーズの有無	ある
代替可能性の有無	不十分
区が実施すべき強い理由があるか	必須だが裁量余地あり
判断理由	
水都すみだの再生に向けて、観光舟運を含めた水辺の魅力に係る情報発信を行っていく必要がある。	
2　有効性・適格性	
事業の目的が施策に合致しているか	合致している
指標は目標値を満たしているか	満たしている
かけたコストに対し十分な成果があるか	ない
判断理由	
隅田川における観光舟運については、比較的順調に推移しているものと考えている。一方、内河川の舟運については、現状、運行上・営業上の課題も生じており、民間事業者が自走できるような仕組みづくりへの行政としての支援が必要であると考えている。	
3　効率性・経済性	
目的・対象が類似する事務事業はないか	ある
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある
判断理由	
関連事業者との連携を強化し、事業実施までの工程やコスト面の改善を図っていく必要がある。	



必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
3	3	1	2

類似事業との統合

中間・最終年度の講評	現在、内河川（おしなり公園船着場）で行われている民間の舟運については、北十間川樋門の課題や、平成２９年１０月以降予定されている扇橋閘門の工事（内河川に入るために、大幅な迂回が必要となる）等との関係によって、これまでの場所での運行、営業等の継続が難しくなりつつある。
今後の方向性	２０２０年に向けて進められている「北十間川・隅田公園観光回遊路整備事業（船着場、親水テラス等の整備）」と、既存の水辺の賑わい創出事業の効果等を掛け合わせ、民間事業者が継続性を持って営業活動がしやすい環境を実現し、引き続き、観光舟運の活性化に取り組んでいく。

平成29年度　事務事業評価シート

施　　策	122	区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくる	部内優先順位
事務事業	両国観光まちづくりグランドデザイン推進事業		5
事業概要	平成２５年度に策定した「両国観光まちづくりグランドデザイン」の実現に向け、地域と行政の協働による観光まちづくりを推進する。		主管課・係（担当） 観光課観光担当 03-5608-6500
施策への関連性	地域と共に観光まちづくりを推進し、両国地域の賑わいを創出する。		

必要性・妥当性

区民のニーズ

地域との協働により、両国地域を中心としたまち歩き観光の拠点の形成や水辺の賑わい創出、おもてなし気運の醸成等を推進していくことにより、両国エリア全体の更なる魅力の向上・活性化を図っていく。

代替可能性の状況（区が実施する必要性等）

地域の自主的、主体的な活動を促進していくことを目標としているが、軌道に乗るまでの間は、区が地域の活動を支援していく必要がある。

有効性・適格性

手段に対する指標（活動指標）

指　標	地域連絡会・エリア懇談会の開催				単　位	回
最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	H31
12	H32	目標	12	12	12	12
		実績	12			
	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標	12					
実績						

指標の選定理由及び目標値の理由

地域主体の取組、自走化に向けた意識づくり、また各エリアの情報共有のために、活発な意見交換が求められる。

目的に対する指標（成果指標）

指　標	地域主体の活動の実施				単　位	回
最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	H31
4	H32	目標	1	1	2	3
		実績	1	1		
	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標	4					
実績						

指標の選定理由及び目標値の理由

両国エリアの賑わい創出と地域活性化のため、地域が主体となった活動を推進していくことを指標とする。

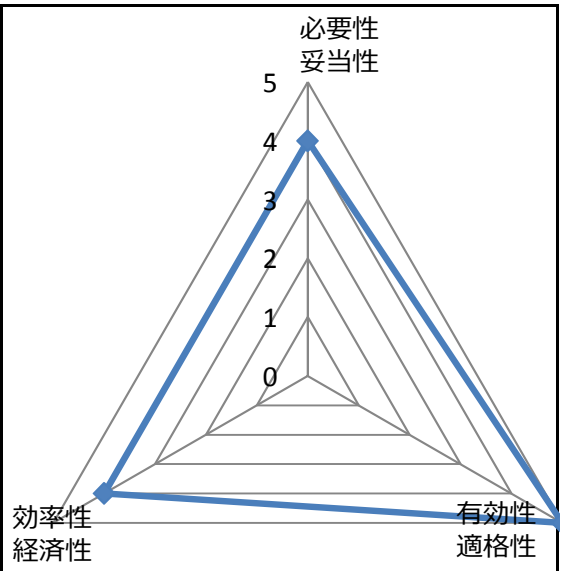
財政面〔決算額〕（単位：千円）

H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
2,997						

H35	H36	H37

〔予算の傾向〕
減額傾向にある。

1　必要性・妥当性	
区民ニーズの有無	ある
代替可能性の有無	ない
区が実施すべき強い理由があるか	必須だが裁量余地あり
判断理由	
最終目標は地域が主体となって行う取組に対し行政が支援する体制を構築することであり、そこに至るまでは区が連携、調整の働きを担う必要がある。	
2　有効性・適格性	
事業の目的が施策に合致しているか	合致している
指標は目標値を満たしているか	満たしている
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある
判断理由	
地域と共に地域の声を反映したエリアマップを作成した。東京マラソン等において、来街者に効果的に発信した。	
3　効率性・経済性	
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある
判断理由	
地域が自主的に観光資源の発掘や発信を行えるモデルケースを構築することは、区全体の魅力の向上につながるものと考えられる。	



必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
4	5	4	4

改善・見直しの上継続

中間・最終年度の講評	平成２５年度の「両国観光まちづくりグランドデザイン」の策定後、平成２６年度の地域資源の発掘と編集、平成２７年度の地域資源の磨き上げと地域のおもてなしの醸成、平成２８年度の地域資源の再編集・発信と、段階を踏みながら着実に事業を推進している。
今後の方向性	今後はエリアごとの重点テーマに即した事業を組み立てていくこととし、地域が行う自主的な取組に対し区が支援する体制を構築していく。もって、事業の自走化を図る。

平成29年度　事務事業評価シート

施　　策	122	区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくる	部内優先順位
事務事業	北斎美術館開館に伴う回遊促進事業		6
事業概要	すみだ北斎美術館を起点とした観光回遊促進イベント等を開催し、本区の観光認知度の向上及び国内外からの誘客促進を図る。		主管課・係（担当） 観光課観光担当 03-5608-6500
施策への関連性	北斎美術館の開館に合わせたイベント等を実施することで、本区の認知度の向上と来街者の区内回遊を促進する。		

必要性・妥当性

区民のニーズ

国内外から注目されている北斎美術館を有効に活用して、区内各地域への観光回遊を促進して賑わいを創出することにより、地域の活性化につなげる。

代替可能性の状況（区が実施する必要性等）

北斎美術館を本区の目玉の観光コンテンツとして位置付け、両国観光まちづくりグランドデザインの実現に向けた取組とも合わせて実施していく必要がある。

有効性・適格性

手段に対する指標（活動指標）

指　標	回遊促進イベント実施回数					単　位	回
最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29		H30	H31
4	H28	目標	4				
		実績	4				
	H32	H33	H34	H35		H36	H37
目標							
実績							

指標の選定理由及び目標値の理由

すみだ北斎美術館等すみだならではの魅力を活かした回遊促進イベントを実施することで、本区の認知度の向上及び区内回遊促進の推進につなげることができた。（対象イベント：北斎美術館開館イベント、まち歩きイベント（春・夏）、ご当地キャラクターイベント）

目的に対する指標（成果指標）

指　標	回遊促進イベント参加者数					単　位	人
最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29		H30	H31
200,000	H28	目標	200,000				
		実績	250,000				
	H32	H33	H34	H35		H36	H37
目標							
実績							

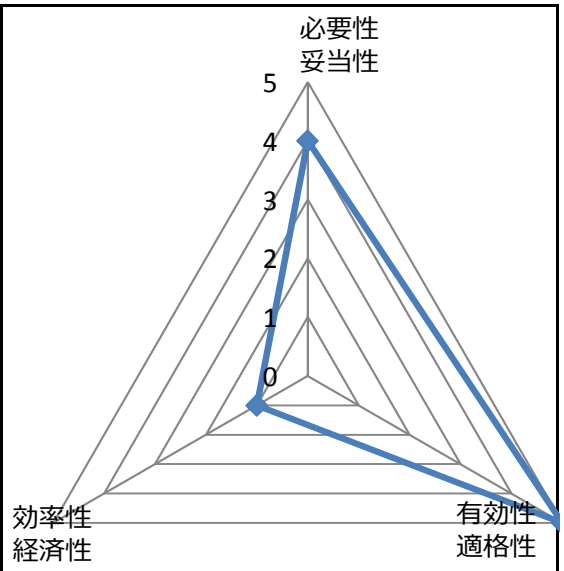
指標の選定理由及び目標値の理由

戦略的・効果的な情報発信等により、多くの誘客が図れた。スタンプラリー等の参加者も多く、区内回遊促進に寄与した。

財政面〔決算額〕（単位：千円）

H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
9,967						
H35	H36	H37	〔予算の傾向〕			

1　必要性・妥当性	
区民ニーズの有無	ある
代替可能性の有無	増加傾向だが不十分
区が実施すべき強い理由があるか	ある
判断理由	
本区の大きな観光コンテンツの一つである北斎美術館を活かし、今後も区内回遊促進を図っていく必要がある。	
2　有効性・適格性	
事業の目的が施策に合致しているか	合致している
指標は目標値を満たしているか	満たしている
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある
判断理由	
地元との連携や弘前市との広域地方連携により、区全体で開館イベントを盛り上げることができ、広く情報発信が実施できた。	
3　効率性・経済性	
目的・対象が類似する事務事業はないか	ある
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある
判断理由	
区を挙げての事業であるため、効率性、経済性については十分な検討を重ね、実施できたものと判断する。	



必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
4	5	1	2

類似事業との統合

中間・最終年度の講評	北斎美術館の開館に合わせて本事業を実施することにより、国内外から訪れた多くの来館者に対し本区の魅力を広くPRすることができ、認知度の向上と区内回遊を促進することができた。
今後の方向性	平成２８年度にて当該事業は完結しているものの、２０２０年東京オリンピック・パラリンピックを見据え、国内外からの更なる観光客の誘客と区内回遊促進を目指すため、今後も北斎美術館を中心とした区内観光コンテンツの魅力向上と情報発信を行っていく必要がある。